

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-520	24-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Smoking and Alcohol Consumption and Risk of Incident Diverticulitis in Women 女性における喫煙・飲酒と憩室炎の発症リスク		
執筆者		
Gunby SA, Ma W, Levy MJ, Giovannucci EL, Chan AT, Strate LL.		
掲載誌		
Clin Gastroenterol Hepatol. 2024 May;22(5):1108-1116. doi: 10.1016/j.cgh.2023.11.036.		
キーワード	PMID	
憩室炎、発症リスク、女性、喫煙、アルコール摂取	38122959	
要 旨		
<p>背景：憩室炎は消化器疾患の中でも一般的であり、特に高齢化に伴い発症率が増加している。生活習慣要因がそのリスクに影響を与えることは知られているが、特に喫煙やアルコール消費がどの程度関与するかは十分に明らかにされていない。本研究では、これらの生活習慣と憩室炎発症リスクとの関連を明確にすることを目指した。</p> <p>方法：Nurses' Health Study IIに参加する84,232名の女性を対象に、2003年から2017年にかけて喫煙状況（2年ごと）とアルコール摂取量（4年ごと）を追跡調査した。コックス回帰モデルを用いて、多変量調整後のハザード比を算出し、喫煙やアルコール消費の影響を評価した。</p> <p>結果：約14年間の追跡調査で1,139,660人年のデータを収集し、3,018件の憩室炎発症が確認された。現在喫煙者および過去喫煙者は非喫煙者に比べて憩室炎発症リスクが20%高く、30g/日以上アルコール摂取者では26%の憩室炎発症リスク増加が見られた。また、喫煙とアルコール摂取の両方を有する女性では、憩室炎発症リスクが60%増加し、これらの因子の相乗効果があることが示唆された。さらに、アルコールの種類では、ビールや赤ワインよりも蒸留酒（リキュール）が憩室炎発症リスクに強く関連していた。</p> <p>結論：喫煙とアルコール摂取は女性における憩室炎発症の修正可能なリスク因子であり、予防策としてこれらの生活習慣を見直すことが推奨される。本研究の結果は、医療現場における生活習慣改善指導の重要性を裏付けるものであると考える。</p>		